

令和2年度

さいたま市地域医療研究費補助事業報告書

1 研究題目

さいたま市4医師会の災害対策について

研究代表者 浦和医師会 松谷一成

共同研究者

◎さいたま市4医師会連絡協議会・災害医療部会

大宮医師会	松本 雅彦 会長 桃木 茂 副会長
岩槻医師会	林 承弘 会長 丸山 泰幸 理事
さいたま市与野医師会	森 泰二郎 会長 岩崎 彩 副会長 阪 眞 副会長 澁谷 純一 理事
浦和医師会	登坂 英明 会長 井上 祐介 理事

1 研究題目

さいたま市4医師会の災害対策について

2 目的

災害時における安否確認サービスを利用した医師会の対応
会員の安否確認
医療救護所への出動医師の確保
トリアージの訓練

3 内容・方法

- ①対策本部の設置
各医師会での指揮系統の検討
- ②救護班の編成
会員への出動、協力要請
(緊急連絡網、安否確認サービスオクレンジャーの導入)
- ③連絡手段の確立
医療救護所への出動医師への連絡
(オクレンジャー)
- ④救護班の装備

⑤救護所の変更・避難所・給水所の確認

現在さいたま市4医師会とさいたま市との協議により医療救護所場所の変更をさいたま市災害医療部会で検討している。

救護所・避難所・給水所のマップ作成

⑥他の関係機関との連携

さいたま市（地域医療課、防災課、保健福祉局など）と、他の関係機関（さいたま市薬剤師会、埼玉県看護協会）との協議

⑦災害医療に関する講演、講義の開催

トリアージの訓練、災害用カルテの用法などの会員への講義

4 まとめ

さいたま市4医師会の会長、共同研究者の先生方、担当理事の先生と協議会を開き、助言や指摘をいただきながら災害対策について検討した。とくに大きな変更点として、会員の安否確認や出動医師への連絡を、例えば浦和医師会では、災害時優先携帯電話などを使うことになっていたが、安否確認システムである「オクレンジャー」を4医師会で導入することにより、より簡便に安否確認・緊急連絡ができるようになった。さらに4医師会全体で同一システムを導入したことにより、医師会ごとに個別に行っていた安否確認、情報交換について横の連携がとれるようになった。

また今回の最大の目的は医療救護所の変更であり、市と協議を重ね、以前の協議書では各区役所や中学校などに設置予定であったものを、各区ごとに選定した病院敷地内に設置することができた。

そしてこの研究費を使い、救護班の装備として災害用ビブスとヘッドライトを購入し、4医師会独自のハザードマップを作成した。また、今あるさいたま市洪水ハザードマップは、浸水する程度により色が濃くなるようになっているが、それを浸水する可能性があるところを全てブルーで表すようにし、また荒川水系だけでなく利根川水系によるものも加えた。新しい医療救護所や避難所、給水所、また各医師会、学校、救急病院の連絡先も加え新たに作製した。

他の関係機関との連携については、さいたま市災害保健医療体制検討会に出席。トリアージの訓練や災害用カルテの用法などについての講習会などの実施も考えていたが、新型コロナウイルス感染症の拡大状況から難しいと判断した。今後、安否確認システムを活用しての指揮系統の確認や出動可能医師との連絡を行う。また、医療救護所ごとのテント設置を含め、病院と医師会員と市の担当者との、顔の見える災害訓練を計画し、今回の研究を役立てていきたい。